

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-3 子ども読書活動の推進	主な取組	②子ども読書活動推進事業の実施
2 事務事業名	子ども読書活動推進事業の実施	所管課	生涯学習課 市立図書館
3 事業の概要	創意工夫した子ども向け行事を開催し、本に親しむ機会を作る。また、ヤングアダルトコーナーの充実を図るとともに、推薦図書の紹介などにより中高生の利用促進に努める。		
4 目標	【目標】 子どもたちが図書館を通じて読書に親しめる環境を創るとともに、広く広報を行う。		
	【前年度からの改善方法】 より多くの子どもに図書館を利用してもらえるよう、行事の内容や広報の仕方を工夫する。		
	【数値目標】 児童図書の貸出冊数 192,000冊		
5 取組状況・成果	【取組状況】 児童図書の充実を図るとともに、子ども読書に関する行事を20回開催した。また、館内見学や利用ガイダンスのため、17団体、561人を受け入れた。ヤングアダルトコーナーについても、引き続き、図書を充実するとともに、ホームページでの推薦図書の紹介、YA通信による広報、学校との連携などにより中高生の利用促進に努めた。 《子ども読書活動推進事業として実施した主な行事》 ○子どもの読書週間行事「読みメンおはなし会とワークショップ」 ○子ども読書活動推進事業講演会「コロナ禍で見えてきた読み聞かせの格差- 五感・ことば・絵本-」 ○ジュニア司書養成講座 ○夏休み行事「こどもクイズラリー」 ○秋の読書週間行事「よなぼんすごろく」「本の福袋」 ○クリスマスおはなし会 など		
	【成果】 ほぼ計画通り行事を実施し、学校等の見学もできるだけ受入し、図書館利用につなげた。児童図書の貸出冊数は目標を達成し、コロナ禍前の水準に戻りつつある。		
	【数値目標の実績値】 児童図書の貸出冊数 203,914冊		
6 課題・今後の対応	講演会、体験学習の受入を行うなど、子どもたちが読書に親しめる環境を創るために、創意工夫した取組を行う。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基 本 施 策	番 号	2 - 4	所 管 課	地域振興課		
	項目名	公民館運営の充実				
	概 要	社会教育を基盤とした地域づくりが期待されており、更なる取り組みの強化のため、事業の活性化を図るとともに、新たな参加者を取り込む工夫を行う。				
主 な 取 組	番 号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価		
	①	広報活動		◎		
	②	社会教育講座		○		
	③	体育・文化事業		○		
	④	ひとづくり・まちづくり推進事業		○		
取組状況の総括	【成果】 全ての公民館で各種事業を実施するとともに、事業の企画運営については、各公民館で住民のニーズに合致した事業を企画・実施した。 しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の子な行事（夏祭り、運動会、公民館祭）は中止及び内容を工夫して実施する等の対策が必要だった。 公民館の活動をより分かりやすく発信するため、ホームページのリニューアルを実施した。					
	【課題・今後の対応】 各地域で住民のニーズを満たすとともに地域課題の解決に向けた事業を企画・実施する。また、公民館ホームページをリニューアルしたことにより、公民館からの情報発信をより充実させる取り組みが必要である。					
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり					
評価理由	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、対策を実施することで可能な事業を実施した。					
教育委員の 意見・指摘	市長部局へ移管（評価対象外）					

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-4 公民館運営の充実	主な取組	①広報活動
2 事務事業名	広報活動	所管課	地域振興課
3 事業の概要	「公民館だより」の発行、ホームページの充実により、公民館及び地域の活動について情報提供に努める。		
4 目標	【目標】 全ての公民館で毎月「公民館だより」を発行する。 公民館行事や地域の様子について、ホームページを活用し、情報発信を行う。		
	【前年度からの改善方法】 公民館の活動等をより分かりやすく伝えるため、ホームページの改修を行った。		
	【数値目標】 29公民館×12か月の「公民館だより」発行。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 全ての公民館で毎月「公民館だより」を発行した。 公民館の活動等をより分かりやすく情報発信するため、各公民館のホームページを米子市ホームページ内に移行する改修作業を実施するとともに、公民館職員への研修を実施した。		
	【成果】 公民館ホームページの改修を行うことで、スマートフォン等の各種端末で閲覧しやすくなり、利用者の利便性向上に繋がった。		
	【数値目標の実績値】 「公民館だより」 29館×12か月 348部		
6 課題・今後の対応	公民館ホームページのリニューアルにより、公民館からの情報発信をより充実させるとともに、地域活動の様子等について分かりやすく伝える取り組みが必要である。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-4 公民館運営の充実	主な取組	②社会教育講座
2 事務事業名	社会教育講座	所管課	地域振興課
3 事業の概要	地域課題への地区住民の意識を高め、地域社会の発展を図ることを目的とした社会教育講座を開催する。		
4 目標	【目標】 全ての公民館で基準開催講座数以上の講座を開催する。 (公民館1館あたり、家庭教育講座1回、人権問題講座1回の計2回を必須とする)		
	【前年度からの改善方法】 社会教育を基盤とした地域づくりを進めるため、地域の実情に合わせて事業を実施できるよう、講座の開催回数の基準を見直した。また、コロナ禍において事業を継続して実施するため、オンライン会議等のシステムを活用した。		
	【数値目標】 29館全館で各2テーマを含む生涯学習講座を開催する。 ①開催回数 58回 (29館×2講座) ②参加人数 1,044人 (昨年の1講座あたり平均参加者数18人×58回)		
5 取組状況・成果	【取組状況】 コロナ禍にあっても公民館で様々な地域行事を行うなかで、全ての公民館で基準講座数以上の講座を開催した。オンライン会議システムを活用し部屋を分散するなど、各公民館が工夫を凝らし、多様な内容となった。		
	【成果】 新型コロナウイルス感染症拡大により講座の一部(16講座)を中止したが、感染対策を行い学習講座を提供することができた。 コロナ禍においても地域住民の学びを継続することで、住民が企画する様々なテーマを取り上げ、教養、地域の課題を学習する内容となった。		
	【数値目標の実績値】 29館で必須の2講座を含む生涯学習講座を開催 ①開催回数 417回 (企画433事業 実施417 中止16) ②参加人数 9,418人		
6 課題・今後の対応	参加者の高齢化や固定化が課題となっており、多年代の住民が参加できるよう内容や周知について工夫が必要である。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-4 公民館運営の充実	主 な 取 組	③体育・文化事業
2 事務事業名	体育・文化事業	所 管 課	地域振興課
3 事業の概要	地域における住民の交流を促進するため、体育及び文化行事を開催する。		
4 目 標	【目標】 住民が主体となり参加する地域行事を活性化させるとともに、地域コミュニティの醸成を図る。		
	【前年度からの改善方法】 コロナ禍において感染防止対策を実施するとともに、開催できる方法を検討しながら、継続して事業を実施する。		
	【数値目標】 全ての公民館で実施。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 全ての公民館で校区民運動会、公民館際、各種スポーツ大会等において住民主体による企画運営を行った。		
	【成果】 新型コロナウイルス感染症の影響により、校区民運動会を実施した公民館は1館にとどまったが、運動会以外のスポーツ行事を計画していた公民館もあり、3公民館は体育行事を実施できた。 公民館祭について、中止とした公民館は2館あったが、他の27館では感染対策を行いながら実施した。体育・文化活動を通して、地域コミュニティの醸成に努めた。		
	【数値目標の実績値】 地区体育大会 実施4館（うち地区運動会 1館） 公民館祭 実施27館		
6 課題・今後の対応	アフターコロナ時代に向けて事業を継続し、多くの地域住民が参加できる形態となるよう工夫する。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-4 公民館運営の充実	主な取組	④ひとづくり・まちづくり 推進事業
2 事務事業名	ひとづくり・まちづくり推 進事業	所管課	地域振興課
3 事業の概要	公民館において地域の環境美化活動、世代間交流事業等を通して、地域のまちづくりにおける取組を実施する。		
4 目 標	【目標】 地域において、住民が主体的に活動を実施し、活力のある豊かで住みよい地域づくりを目指し、地域の人材育成に取り組む。		
	【前年度からの改善方法】 コロナ禍で事業開催が難しい状況だったが、感染対策を実施しながら可能な事業を実施し、地域住民が繋がることができるよう取り組む。		
	【数値目標】 全ての公民館で実施。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 地域の実情に合わせて、地域づくりの課題の解決や人材育成を行った。 ・まちの環境美化として花植え活動 ・安心安全な地域になるため見守り活動 ・しめ縄、門松づくり等を通して世代間交流 ・子ども支援事業		
	【成果】 地区の夏祭り行事等については、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止や規模縮小とした場合が多かったが、その他の事業では感染防止対策を講じ可能な範囲において実施した。コロナ禍においても住民同士が繋がることで、公民館を拠点とする地域づくりの推進につながった。		
	【数値目標の実績値】 29館全ての公民館で推進事業を実施。		
6 課題・今後の対応	これまで地域で培われてきた実績を生かしながら、ひとづくり、つながりづくりを進める事業のあり方を検討し、地域の人材育成の推進を図る。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基 本 施 策	番 号	2 - 5	所 管 課	地域振興課		
	項目名	公民館の整備				
	概 要	公民館施設について、利用者の安全・安心を確保するため維持管理に努めるとともに、老朽化が進む施設の整備を行う。				
主 な 取 組	番 号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価		
	①	公民館施設等整備事業		○		
	②	明道公民館整備事業		○		
取組状況の総括	【成果】 公民館施設について、改修工事を実施するとともに、緊急性の高いものから修繕を実施し、利用者の安全・安心につながるよう維持管理に努めた。次年度については、各公民館毎に緊急度を含めた修繕要望を作成し、公民館全体の優先順位を決めた上で対応にあたることとした。 明道公民館整備については、南保育園統合移転計画の進捗と合わせ、保育園跡地を候補地とする地域の意向を確認した。					
	【課題・今後の対応】 明道公民館整備事業方針については、南保育園統合計画の進捗状況に伴い、その変化に応じた対応をすることとなる。 公民館全体の施設整備については、米子市公共施設総合管理計画の中で検討を進める必要がある。					
基本施策評価 (総合評価)	B					
評価理由	公民館施設等整備事業は予定どおり実施した。明道公民館の整備方針決定には至っていないが、南保育園統合計画の進捗及び地域の意向に沿ったものであることから、この評価とした。					
教育委員の 意見・指摘	市長部局へ移管(評価対象外)					

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-5 公民館の整備	主な取組	①公民館施設等整備事業
2 事務事業名	公民館施設等整備事業	所管課	地域振興課
3 事業の概要	利用者が快適で安全に利用できる公民館施設の機能維持として必要な改修を緊急性の高いものから実施する。		
4 目標	【目標】 安心・安全・快適に施設を利用するために必要な改修を緊急性の高いものから実施する。		
	【前年度からの改善方法】 個別施設計画を踏まえ、各館から聞き取りした状況の精査を行い、利用者の利便性と安全性をふまえて優先度を作成して改修を実施する。		
	【数値目標】 実施率 100%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 安心・安全・快適に利用できる施設を目指し、必要な改修等を実施した。また、29公民館全てでWi-Fi環境の整備を行い利便性の向上を図った。		
	【成果】 必要な改修等を実施し、施設の安全安心を図ることができた。Wi-Fi環境の整備を実施したことにより、リモートで講座の開催等が可能となる環境が整った。 《Wi-Fi整備》全29館 《空調改修工事》明道（学習室他）、義方（和室他）、大篠津（事務室他）、淀江（研修室） 《非常階段設置工事》義方 《玄関建具改修工事》永江、県 《その他工事》義方（軒裏改修）、大篠津（自転車車庫改修）、彦名（フェンス改修）、大和（前庭証明設置）		
	【数値目標の実績値】 実施率 100%		
6 課題・今後の対応	施設全体の老朽化が進む中で、施設の状況に応じた修繕工事の対応を行っている状況である。建築から相当の年数が経過しており、より詳細な管理計画を策定することが必要。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-5 公民館の整備	主な取組	②明道公民館整備事業
2 事務事業名	明道公民館整備事業	所管課	地域振興課
3 事業の概要	老朽化が進む明道公民館の整備方針を策定する。		
4 目標	【目標】 明道公民館について、地域の意向に沿った整備方針を決定するとともに、方針の実現に向けた準備を行う。		
	【前年度からの改善方法】 明道公民館について、市立保育園統合計画の動向に合わせて、地元住民との認識の共有に務める。		
	【数値目標】 —		
5 取組状況・成果	【取組状況】 明道公民館整備については、南保育園統合移転計画の進捗と合わせ、保育園跡地を候補地とする地域の意向を確認した。		
	【成果】 市立保育園統合計画を進めることも政策課と連携し、住民に対する説明会などで認識の共有を図った。		
	【数値目標の実績値】 —		
6 課題・今後の対応	明道公民館の整備について、市立保育園統合計画の進捗状況に注視しながら、適切に事業を進める。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番 号	2 - 6	所 管 課	生涯学習課 市立図書館		
	項目名	生活に役立つ図書の充実				
	概 要	蔵書数や貸出冊数は年々増加しており利用者の満足度は向上してきているが、今後は市民のニーズを的確に把握し、生活に役立つ実用書などの収集や更なる職員の選書能力やレファレンス力の向上を図る必要がある。地域の「知の拠点」として、また「情報センター」として、快適で利用しやすく開かれた図書館を目指し、市民の生活に役立つ資料の充実を図る。				
主 な 取 組	番 号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価		
	①	生活充実図書整備事業		◎		
取組状況の総括	【成果】 蔵書数は令和3年度比101%、令和4年度目標340,000冊に対し、350,246冊であり、目標は達成した。また、主催・共催事業は計画したうち約99%を実施することができた。個人貸出冊数や個人貸出利用人数は、コロナ禍前の令和元年度比で約92%と、ほぼ同水準まで戻りつつある。テーマ展示は、各フロア展示（1階）に加え、特別展示としてギャラリー（2階）での特設文庫開設展示、他県図書館との交換展示を行うなど内容の充実を図った。					
	【課題・今後の対応】 アンケートやリクエストをもとに市民ニーズを的確に把握し工夫した取り組みを進めるとともに、職員の選書能力の向上を図る。なお、今後の館内展示については、展示場所等はほぼ例年どおりとしつつ、期間を延長したり、年間を通して実施しながら内容の充実を図る。					
基本施策評価 (総合評価)	A					
評価理由	数値目標を達成し、また、新型コロナウイルス感染症対策を行いつつも、主催・共催事業をほぼ計画通りに実施することができたことから、この評価とした。					
教育委員の 意見・指摘	職員の選書能力の向上を図り、引き続き時代に合った選書に努めてほしい。					

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-6 生活に役立つ図書の充実	主な取組	①生活充実図書整備事業
2 事務事業名	生活充実図書整備事業	所管課	生涯学習課 市立図書館
3 事業の概要	健康、医療、介護、年金、法律、ビジネスなど生活に必要な情報を市民が利用しやすいよう、コーナーや資料の充実を図る。 また、関係機関との連携により、各種相談会や関連講座を開催するなど、新規の利用者の掘り起こしに努める。		
4 目標	【目標】 地域の「知の拠点」、「情報センター」として機能するために、蔵書数の増加を図るとともに、一般教養書の充実に努める。また、健康情報・法律情報・ビジネス支援など生活に役立つ図書をテーマ展示することにより、利用者の掘り起こしを図る。 【前年度からの改善方法】 市民ニーズの把握に努め、関係機関との連携により図書館利用の拡大を図るとともに、社会生活に役立つ良質な図書の購入に努める。 【数値目標】 蔵書数 340,000冊		
5 取組状況・成果	【取組状況】 蔵書数の増加を図るとともに、生活に役立つ図書のテーマ展示や、各種ビジネス相談会や講演会などを開催した。 【成果】 蔵書数の目標は達成した。また、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、主催・共催事業をほぼ実施することができた。個人貸出冊数や個人貸出利用人数は、コロナ禍前の水準まで戻りつつある。テーマ展示は172回実施し、各フロア展示（1階）に加え、特別展示としてギャラリー（2階）での特設文庫開設展示、他県図書館との交換展示を行うなど内容の充実を図った。 【数値目標の実績値】 蔵書数 350,246冊		
6 課題・今後の対応	引き続き、市民ニーズを的確に把握し工夫した取り組みを進めるとともに、職員の選書能力の向上を図る。なお、今後の館内展示については、展示場所等はほぼ例年どおりとしつつ、期間を延長したり、年間を通して実施しながら内容の充実を図る。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番 号	3 - 1	所 管 課	学校給食課		
	項目名	学校給食における地産地消の推進				
	概 要	学校給食用食材の県産品利用率は高くなってきたが、児童生徒の地元の食べ物に対する認識はまだ低く、ふるさとに愛着をもつまでに至っていない。 そのため、食に関する指導を充実させるとともに、県産品利用の更なる推進、地場産物を活用した取組を引き続き充実させることにより、児童生徒のふるさとに対する誇りや愛着、食に関する感謝の気持ちをより一層育むよう努める。				
主 な 取 組	番 号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価		
	①	学校給食用食材の県産品利用の推進と充実		○		
	③	児童生徒から募集した地元食材を使用した献立の実施		◎		
	②	生産者と児童生徒の交流の実施		△※		
	④	郷土料理等の積極的な導入と継承		◎		
取組状況の総括	【成果】 地場産物や郷土料理を取り入れた特色ある給食を積極的に提供することにより、児童生徒に地域の自然や食文化について伝えることができた。 地元食材を取入れた献立募集の応募件数の推移や学校給食アンケートの結果から、児童生徒の地元の食べ物に対する認識は高くなってきているように感じられる。					
	【課題・今後の対応】 引き続き、県産品利用の更なる推進、地場産物を活用した本市の特色を活かした取組を充実させることにより、児童生徒のふるさとに対する誇りや愛着、食に関する感謝の気持ちをより一層育むよう努めていく必要がある。					
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり					
評価理由	主な取組の各事務事業における数値目標の達成状況と新型コロナウイルス感染症の影響を勘案し、この評価とした。 生産者と児童生徒の交流事業は、コロナ禍の影響を受け、数値目標を達成できなかったが、リモートでの交流を実施するなどの工夫を行った。					
教育委員の 意見・指摘	地元食材を取り入れた献立募集において、市長賞などの新たな賞を創設するなど積極的な取組が、児童生徒の興味を引きつけ地元食材への関心の高まりにつながっている。ワールドカップ給食などタイムリーな国際交流給食を実施することで、世界に目を向けると同時に日本の伝統やふるさとの食を見直すきっかけづくりとなったことは評価できる。					

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-1 学校給食における地産地消の推進	主な取組	①学校給食用食材の県産品利用の推進と充実
2 事務事業名	学校給食用食材の県産品利用の推進と充実	所管課	学校給食課
3 事業の概要	地場産物の使用割合を高めるため、地元 J A など関係団体との連携と情報共有を図る。		
4 目標	【目標】 いきいきとした豊かな心や郷土愛を育むことを目的として、米子市や鳥取県の食材を取り入れた料理や、米子市に伝わる郷土料理など、特色のある給食を提供する。		
	【前年度からの改善方法】 地元産食材の安定的な納入に向けて、関係団体等との情報交換を引き続き行う。また、郷土料理や地場産物を取り入れた特色ある給食献立の実施に継続して取り組んでいく。		
	【数値目標】 地産地消率（県産品使用比率）：前年度並み（年平均） ※令和3年度 県産品使用比率 68%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 毎月19日の食育の日「いきいきこめっこデー」を中心に地元産の食材をより多く取り入れた料理や、米子市に伝わる郷土料理など特色ある給食を提供した。 J A 鳥取西部に翌月の野菜使用量について情報提供するとともに、関係団体と地産地消等について意見交換を行うなど情報共有を図った。		
	【成果】 年間の県産品使用比率は昨年度を下回ったが、地場産物や郷土料理を取り入れた特色ある給食を積極的に提供し、児童生徒に地域の自然や食文化について伝えることができた。 ※ いきいきこめっこデーの県産品使用比率 64%～100%		
	【数値目標の実績値】 令和4年度 県産品使用比率（年平均） 62%		
6 課題・今後の対応	市農林課などの庁内関係課や J A 鳥取西部などの関係団体との連携と情報共有を一層進めることにより、地場産物の更なる使用拡大を図るとともに、地場産物や郷土料理を取り入れた特色ある給食献立の実施に継続して取り組み、児童生徒に食やふるさとの魅力を引き続き伝えていく必要がある。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-1 学校給食における地産地消の推進	主な取組	②生産者と児童生徒の交流の実施
2 事務事業名	生産者と児童生徒の交流の実施	所管課	学校給食課
3 事業の概要	生産者の思いを伝え、感謝の気持ちを育むため、生産者との交流事業を実施する。		
4 目標	【目標】 児童生徒と生産者との交流事業を実施する。 【前年度からの改善方法】 コロナ禍で学校への外部からの立入が困難な中、状況を理解の上で協力できる生産者に参加していただき事業を実施するとともに、リモートによる実施などICT機器を活用した生産者と子ども達を広くつなぐ交流方法を研究、実施していく。 【数値目標】 交流事業 10回以上 うち リモート実施回数 3回以上		
5 取組状況・成果	【取組状況】 コロナ禍で学校への外部からの立入が困難な中、状況を理解の上で協力できる生産者等に参加していただき対面で事業を実施することができた。また、ICT機器を活用したリモートでの交流を実施した。 【成果】 交流事業の実施回数は昨年度より増えたものの、コロナ禍で目標回数には及ばなかった。しかし、栄養教諭等によるT・T授業（ティーム・ティーチング授業）の中でしっかりと生産者の思いを伝えるなどの工夫を行い、取組内容の充実を図ることができた。 【数値目標の実績値】 交流事業（講話） 7回 ・野菜生産者 4回 ・牛乳、酪農関係者 3回（うちリモート実施 1回）		
6 課題・今後の対応	生産者に取材し、給食だよりで特集号を発行したり、ICT機器などを活用して生産者と児童生徒を広くつなぐなど、新たな交流方法を研究する必要がある。		
7 個別事業評価	△ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-1 学校給食における地産地消 の推進	主 な 取 組	③児童生徒から募集した地 元食材を使用した献立の実 施
2 事務事業名	児童生徒から募集した地元 食材を使用した献立の実施	所 管 課	学校給食課
3 事業の概要	児童生徒から地元食材を取り入れた献立の募集を行い、全国学校給食週 間等に提供する。		
4 目 標	【目標】 小学4年生から中学3年生までの児童生徒を対象に、地元食材を取り入 れた献立の募集を行い、地元への愛着が特に伝わる作品を1月の全国学校 給食週間を中心に給食として提供することにより、地元食材に対する興味 や関心を持つ児童生徒を増やしていく。 【前年度からの改善方法】 応募作品への市長賞、教育長賞の創設等、実施方法を見直し、地元食材 に対する興味や関心を持つ児童生徒を更に増やすように努めた。 【数値目標】 応募数 前年度以上 ※令和3年度応募数 1,516点		
5 取組状況・成果	【取組状況】 「いきいきこめっこプロジェクト」の一環として、児童生徒に地元食材 を使った献立を募集し、そのうち53点を全国学校給食週間を中心に実際の 給食として提供することにより、ふるさとの魅力を知り、郷土愛を育む取 組を行った。 また、応募作品への市長賞、教育長賞の創設等、実施方法の見直しを 行ったほか、応募した児童生徒全員に、しおり（裏面に地元食材の写真を 掲載）を配布し、次年度の応募につながるように努めた。 【成果】 児童生徒の献立応募数が毎年増加していることから、地元食材について の関心が高まり、児童生徒の故郷に対する誇りや愛着、食に対する感謝の 気持ちが育ってきているように思われる。 【数値目標の実績値】 応募数 令和4年度 1,522点		
6 課題・今後の対応	学校間の関心の高さに差があり、応募献立数や料理内容に差が出てい る。今後も料理内容の充実を図るための工夫と参加していない学校への啓 発に取組むとともに、ねらいを明確にし関係者に啓発していく必要があ る。 また、応募作品への部門賞の創設等、実施方法を見直し、地元食材に対 する興味や関心を持つ児童生徒を更に増やす取組にしていく必要がある。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-1 学校給食における地産地消の推進	主な取組	④郷土料理等の積極的な導入と継承						
2 事務事業名	郷土料理等の積極的な導入と継承	所管課	学校給食課						
3 事業の概要	ふるさとへの愛着や、地域の自然、文化、産業などに関する理解を深めるため、地域の食材を使用した献立や郷土料理等を積極的に導入し、ふるさと米子の食や魅力を伝える。								
4 目標	【目標】 ふるさとに伝わる伝統料理や郷土料理を計画的に献立に取り入れるとともに、その献立を活用した食に関する指導を実施することにより、児童生徒のふるさとへの愛着を養う。 【前年度からの改善方法】 毎月1回以上郷土料理等を計画的に献立に取り入れることができるよう「献立年間計画」の見直しを図った。郷土料理等の実施日には、料理の由来、歴史などを掲示などで児童生徒、教職員に発信することにより、米子の食や魅力への興味関心を高める。 また、国際交流給食を積極的に実施することで、改めて、ふるさとの食の魅力を見直す機会を増やす。 【数値目標】 <table border="0"> <tr> <td>郷土料理・行事食 実施回数</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>国際交流給食 実施回数</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>特別献立啓発ポスター 作成・掲示</td> <td>15回</td> </tr> </table>			郷土料理・行事食 実施回数	12回	国際交流給食 実施回数	3回	特別献立啓発ポスター 作成・掲示	15回
郷土料理・行事食 実施回数	12回								
国際交流給食 実施回数	3回								
特別献立啓発ポスター 作成・掲示	15回								
5 取組状況・成果	【取組状況】 郷土料理等を献立年間計画に取り入れ、計画的に実施した。また、それにあわせて、掲示ポスターを作成し、各学校の配膳室等に掲示するなど、児童生徒の郷土料理等への興味関心が高まるよう努めた。 市国際交流室と連携し、国際交流給食に取り組み、児童生徒がふるさとの食を見直す契機となるよう努めた。 【成果】 献立年間計画に従って、計画的に毎月献立に取り入れることができた。 また、学校給食アンケートの結果や、地元食材を使った料理の応募作品の中に郷土料理の作品があるなど、児童生徒のふるさとの食べ物や、郷土料理への関心は高まりつつある。 【数値目標の実績値】 <table border="0"> <tr> <td>郷土料理・行事食 実施回数</td> <td>13回</td> </tr> <tr> <td>国際交流給食 実施回数</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>特別献立啓発ポスター 作成・掲示</td> <td>16回</td> </tr> </table>			郷土料理・行事食 実施回数	13回	国際交流給食 実施回数	3回	特別献立啓発ポスター 作成・掲示	16回
郷土料理・行事食 実施回数	13回								
国際交流給食 実施回数	3回								
特別献立啓発ポスター 作成・掲示	16回								
6 課題・今後の対応	献立を生きた教材として指導に活用しているが、児童生徒の郷土料理への理解関心に十分につながっているとは言えない状況である。今後は情報発信方法を研究し、児童生徒の郷土料理等への興味・関心がより高まる工夫を行う。 また、コロナ禍で開催できなかった料理教室を実施し、児童生徒が「楽しみながら」地場産物やふるさとの魅力を学ぶ場を設定する。								
7 個別事業評価	◎								

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番 号	3-2	所 管 課	生涯学習課		
	項目名	生涯学習活動の推進				
	概 要	市民の生涯学習意欲に応えるため、関心の高い内容を中心に学習講座を提供する。 また、本市で生まれ育った子どもたちの20歳の門出を祝うとともに、社会人としての責任の自覚や郷土への誇りと愛着を醸成するため、式典を開催する。				
主 な 取 組	番 号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価		
	①	米子人生大学の開催		△※		
	②	よなごアカデミーの開催		△		
	③	二十歳を祝う会の開催		△		
取組状況の総括	【成果】 市民講座では、2講座の動画配信を実施し、2講座合わせて延べ387回の視聴があった。 当日オンラインにより参加できる講座を1講座開催し、市外の方など2名の参加があった。 開催日を土曜日としたことで、受講者延べ244人のうち、初めて参加された方が延べ25名程度あった。 よなごアカデミーでは、子宮頸がんワクチンの効果を専門の医師から詳しく聞き、正しい知識を提供することができ、理解の醸成を図った。満足度は75%だった。 二十歳を祝う会では、新たに名称を決定し、1月3日に1,008人の参加者を迎え開催できた。					
	【課題・今後の対応】 市民講座では、様々な学びの体制整備、市民ニーズやひとづくり・まちづくりにつながるテーマ選定に取り組んでいく必要がある。 よなごアカデミーでは、専門的な学びを提供する講座としているが、市民のニーズを反映できるように把握に務める。 市民講座、よなごアカデミーともに、より多くの方に届くように周知期間や広報に工夫が必要と考える。 二十歳を祝う会では、実行委員の募集期間を早め、周知を積極的に行う。 成人式に対する意識調査を高校生等を実施し、今後のあり方を検討していく必要がある。					
基本施策評価 (総合評価)	C ※新型コロナウイルス感染症の影響あり					
評価理由	新しく受講される方もあったが、市民講座等の受講者数が低下している。 二十歳を祝う会の実行委員のなり手がなく、募集の方法や周知の方法の検討が足りなかった。					
教育委員の 意見・指摘	市民講座について、幅広い内容のテーマ選定や体験を伴うものとするなど、魅力の差別化を図る必要がある。 二十歳を祝う会で作成したスライドについて、いろいろな場面で使用し、有効活用を図ってほしい。					

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-2 生涯学習活動の推進	主 な 取 組	①米子人生大学の開催
2 事務事業名	社会人向け講座開催事業	所 管 課	生涯学習課
3 事業の概要	市民一般を対象に、生涯を通して健康で、生きがいのある人生に資するよう今日的課題に対応した米子人生大学を開催する。		
4 目 標	【目標】 満足度の高い学習講座を目指して開催しているが、参加者の固定化や高齢化が進み、連続して受講する方の減少が進んでいる。幅広い年代の方が参加しやすい講座の開催を目指す。		
	【前年度からの改善方法】 少子高齢化社会でのひとづくり・まちづくりに資する新たな社会教育講座に取り組むため、「ひとづくり」をテーマに講座の内容を企画し、社会教育委員等と意見交換をしながら実施した		
	【数値目標】 実施講座数 10講座 受講者数(延べ人数) 700人(1講座あたり70人)		
5 取組状況・成果	【取組状況】 幅広い年代の方が参加しやすくなるように、講座開催日を土曜日に変更した。コミュニティ・スクールやフレイル予防など今日的課題や地域課題も学べる内容を取り入れた。「誰でも、いつでも、どこでも学べる生涯学習の実現」に向けて、当日参加できなかった方も学べるように動画配信を2講座実施した。当日、オンラインでも参加できる講座を1講座実施した。		
	【成果】 講座の動画配信を2講座実施し、2講座合わせて延べ387回の視聴があった。 当日オンラインでも参加できる講座を1講座開催し、市外の方など2名の参加があった。 開催日を土曜日としたこともあり、初めて参加された方が延べ25名程度あった。		
	【数値目標の実績値】 実施講座数 6回(うち1回は集合開催を中止した。) 後日配信した講座 2回(視聴数延べ387視聴) 受講者数(延べ人数) 244人(1講座あたり約50人)		
6 課題・今後の対応	誰でも、いつでも、どこでも学べる生涯学習の実現に向けて、配信やオンライン参加など様々な学びの体制を整備していく必要がある。市民ニーズやひとづくり・まちづくりにつながるテーマ選定に取り組んでいく必要がある。		
7 個別事業評価	△ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-2 生涯学習活動の推進	主 な 取 組	②よなごアカデミーの開催
2 事務事業名	社会人向け講座開催事業	所 管 課	生涯学習課
3 事業の概要	専門性のある内容の講座として、よなごアカデミーを開催する。土曜日、日曜日に開催することでより多くの方の受講機会の拡大を図る。		
4 目 標	【目標】 全2講座、各2回の構成でよなごアカデミーを開催する。座学だけでなく、現地学習や実習などをバランスよく開催し、学習効果を高める。また、50歳以下の市民が関心のある題材をテーマにした講座についても開催を検討していく。		
	【前年度からの改善方法】 新型コロナウイルス感染症拡大状況となった場合でも講座の開催ができる体制の構築（オンラインでの講座開催）や市民が参加しやすい講座への見直しが必要。		
	【数値目標】 参加人数（延べ人数）60人（2コース開催 1コース当たり30人）		
5 取組状況・成果	【取組状況】 令和4年度から子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が行われることに伴い、4月9日の子宮の日に鳥取大学と連携し、市民向けにワクチンへの理解を促す講座を開催した。医療関係者向け及び一般向けの2部制として講演会を実施した。 会場での受講が難し方に対応するため、事前申し込み者へ、YouTube配信による受講も実施した。		
	【成果】 子宮頸がんワクチンの効果を専門の医師から詳しく話を聞き、正しい知識を提供することができた。満足度は75%だった。（17回答中満足、やや満足を選択した者が13回答）		
	【数値目標の実績値】 子宮頸がんワクチンのコースのみ開催 医療関係者向けの部参加者 会場受講者12名、YouTube配信による受講者9名 一般向けの部参加者 会場受講者14名、YouTube配信による受講者13名		
6 課題・今後の対応	専門的な学びを提供する講座としているが、講座のテーマ選定について市民のニーズを反映できるように把握に務める。多くの方に届くように周知期間や広報に工夫が必要と考える。		
7 個別事業評価	△		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-2 生涯学習活動の推進	主な取組	③二十歳を祝う会の開催
2 事務事業名	二十歳を祝う会の企画・開催	所管課	生涯学習課
3 事業の概要	本市で生まれ育った子どもたちの成人の門出を祝うと共に、社会人としての責任感や郷土への誇りと愛着を醸成するよう、心に残る会を開催する		
4 目標	【目標】 20歳の方を対象に開催する式の名称を決定する。 社会に羽ばたく青年に責任と義務、自覚につながるように対象者を中心とした実行委員会を組織し、式の企画運営を行う。 コロナ禍での開催となるため、感染防止対策について十分に配慮した開催方法により式を挙げる。		
	【前年度からの改善方法】 コロナ禍での開催となるため、感染リスクを最小限にする工夫が必要となる。そのため、受付時の体温チェック、手指消毒、接触を避けるなどの対策をした。		
	【数値目標】 式の名称を早急に決定する。 対象者による実行委員会を組織し、実行委員による企画・運営をする。 コロナ禍での開催となるため、参加者が安心して参加できる式の開催を目指す。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 成人年齢引き下げに伴い、令和4年度以降の成人式の名称について協議し、「米子市二十歳を祝う会」に決定した。(10月) 二十歳の門出を祝うとともに、社会人としての責任感や郷土への誇りと愛着の醸成を目的に、参加事前申し込み時に「米子の好きどころ」、「二十歳の誓い」について、任意で記入してもらった。その内容をもとに、スライドを作成し、当日上映を行った。なお、スライド作成は、米子西高等学校2年生の探求学習で成人式について関わった生徒に協力してもらった。		
	【成果】 式の名称が決まり、1,008人の参加者を迎え開催できた。 「米子の好きどころ」、「二十歳の誓い」について、事前申込1,009件中542件の記入があり、ふるさとへの思いや今後の自分について考える時間となり、社会人としての自覚やふるさとへの愛着の醸成を図ることにつながった。		
	【数値目標の実績値】 成人式の新たな名称を「米子市二十歳を祝う会」に決定した。 対象者：1,376人 参加者：1,008人 記念感想文応募数：41作品 実行委員に応募される方がおらず、実行委員会を組織できなかった。		
6 課題・今後の対応	実行委員の募集期間を早め、周知を積極的に行う。 成人年齢の引き下げにより、成人式に対する意識調査を高校生等を実施し、今後の開催方針の検討を始める必要がある。		
7 個別事業評価	△		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基 本 施 策	番 号	3 - 3	所 管 課	文化振興課		
	項目名	歴史的文化遺産の保存と活用				
	概 要	過疎化・少子高齢化などによる社会変化により、貴重な文化財が失われないように、その継承に取り組むことが喫緊の課題となっている。また、文化財の適切な整備や維持管理を行いつつ、様々な年齢層に文化財の魅力、価値、重要性を認識してもらう必要がある。そのために、文化財保護の中長期的な基本方針と短期的な事業計画を定めた「文化財保存活用地域計画」を策定し、文化財の保存整備と活用を図っていく。				
主 な 取 組	番 号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価		
	①	文化財保存活用地域計画の策定		◎		
	②	文化財の保存整備の推進		○※		
	③	文化財の活用の展開		○		
取組状況の総括	【成果】 文化財の保存及び活用のため、文化財保存活用地域計画の基礎となる米子市の歴史文化遺産を再度リストアップし、米子市文化財保存活用計画検討協議会の議論を踏まえて、同地域計画の原案を作成した。 文化財の保存整備では、国史跡米子城跡の本格的な整備に着手し、尾高城跡の国史跡指定に向けて文化庁と協議を行っている。また、文化財の活用では、米子城跡の石垣ライトアップや現地ウォークを始め、公民館や埋蔵文化財センターで歴史講座等を実施し、文化財の魅力アップにつなげている。					
	【課題・今後の対応】 米子城跡の保存整備では、整備事業のスケジュールに遅れが生じているため、適切な体制整備と進捗管理を行っていく必要がある。また、整備計画を広く市民に知ってもらうための周知に努めたい。					
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり					
評価理由	各事業における取組内容と数値目標の達成状況を勘案し、この評価とした。					
教育委員の 意見・指摘	文化財の指定・登録が、学校と連携して、ふるさと教育につながっていくような取組を行ってほしい。					

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-3 歴史的文化遺産の保存と活用	主 な 取 組	①文化財保存活用地域計画の策定
2 事務事業名	文化財等管理事業	所 管 課	文化振興課
3 事業の概要	今後の文化財の保存と活用に取り組む上で必要である「文化財保存活用地域計画」を策定し、歴史的文化遺産の保存と活用を図っていく。		
4 目 標	【目標】 行政や有識者等で組織する米子市文化財保存活用地域計画検討協議会での協議に基づき、令和4年度中に地域計画の原案を作成する。(本計画は令和5年度策定予定) 【前年度からの改善方法】 地域計画の基礎とするために集成した歴史文化遺産(文化財)リスト候補物件の情報に精粗があり、かつ公民館地域単位でのリストに重複して広域に分布する民俗文化財等があったため、関係資料をチェックして精査する一方、必要に応じて現地調査により確認する。 【数値目標】 米子市歴史文化遺産リストに登録する未指定文化財(既に把握している埋蔵文化財を除く。)のリストアップ 1,000件		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・米子市文化財保存活用地域計画検討協議会を2回開催し、地域計画の内容を多角的に検討した。 ・既存の文化財調査等を集約するとともに、公民館等の協力を得て、地域で把握している文化財等について情報を収集して「米子市歴史文化遺産リスト」を検討した。 【成果】 ・米子市文化財保存活用地域計画検討協議会での議論を踏まえて、「米子市の歴史文化の特徴」「歴史文化遺産の保存と活用に関する課題・方針」「歴史文化遺産・関連文化財群・文化財保存活用区域の保存・活用に関する措置」などからなる地域計画の原案を作成した。 ・令和5年3月時点での「米子市歴史文化遺産リスト」を作成した。 【数値目標の実績値】 米子市歴史文化遺産リストに登録する未指定文化財のリストアップ 1,156件		
6 課題・今後の対応	パブリックコメントの意見を反映させた文化財保存活用地域計画を文化庁に提出して国の認定を受け、認定された計画について周知を図る。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-3 歴史的文化遺産の保存と活用	主 な 取 組	②文化財の保存整備の推進
2 事務事業名	史跡米子城跡保存整備事業等	所 管 課	文化振興課
3 事業の概要	米子城跡や尾高城跡等の指定文化財の保存整備に取り組むとともに、地域に眠る未指定を含めた文化財を幅広く掌握し、現状把握を行い、その継承に取り組む。		
4 目 標	【目標】 米子城跡の登城路整備工事、三の丸整備を実施し、尾高城跡の本丸・二の丸の遺構調査を基にした報告書をまとめて国史跡指定に向けて文化庁と協議を行う。また、未指定の文化財の調査を進め、新たな市指定文化財の登録を行うことで、文化財の保護に努める。		
	【前年度からの改善方法】 米子城跡の史跡整備を本格的に実施していくため、石垣修復のカルテを作成することで、本事業の具体的な整備を推進していく。		
	【数値目標】 新たな指定文化財の登録 1点以上		
5 取組状況・成果	【取組状況】 1. 史跡米子城跡については、登城路整備、三の丸広場整備設計、杢形石垣修理基本設計、石垣カルテ作成、案内看板設置、支障木伐採、遺構確認発掘調査を実施した。また、史跡青木遺跡では法面崩落個所の測量・調査、史跡福市遺跡では日焼山地区の法面崩落個所の測量設計・調査を実施した。 2. 市内遺跡及び尾高城跡の発掘調査事業を実施した。また、尾高城跡の国史跡指定に向けての文化庁協議を行った。 3. D51形蒸気機関車（有形文化財）、旧海軍美保航空隊飛行機用掩体（史跡）、古曳盤谷奉納龍之図天井画（有形文化財）を新たに市指定文化財として新規指定した。 4. 全国遺跡環境整備会議を開催した。		
	【成果】 1. 史跡整備では、米子城跡の整備を本格的にスタートすることができた。また、米子高専と連携して案内看板（多言語解説等）を作成し、米子城跡内7箇所に設置したことで、来城者への適切な案内や周知を図ることができた。 2. 尾高城跡では、発掘調査を基に報告書を刊行し、国史跡指定に向けて前進を図ることができた。 3. 市指定文化財を新たに指定したことで、重要な文化財の保護を図ることができた。 4. 全国遺跡環境整備会議では、全国に本市の史跡の周知を図り、情報交換等を通じて遺跡の整備を円滑に行うための情報収集ができた。		
	【数値目標の実績値】 新たな指定文化財の登録 3点		
6 課題・今後の対応	新たな指定文化財の登録に関しては、目標値を上回ることができた。 新型コロナウイルス感染症などの影響により、史跡米子城跡の登城路整備工事が遅れ、年度内に整備工事を完了することができなかった。今後は、より詳細な年次計画を立て、工事関係部署と連携したスケジュール管理を行う。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-3 歴史的文化遺産の保存と活用	主な取組	③文化財の活用の展開
2 事務事業名	埋蔵文化財保存・活用事業	所管課	文化振興課
3 事業の概要	学校教育、生涯学習など、新たな切り口による文化財に触れる機会の創出や新たなメニューを提供し、活用の事業展開に活かす。また、企画展、講演会、講座などを実施する。		
4 目標	【目標】 絶景の城PR、石垣ライトアップ、現地ウォークなどの各種事業を実施し、市内外に向けて積極的に情報発信を行う。公民館等の講座を実施し、文化財への理解が深まるように努める。		
	【前年度からの改善方法】 米子城跡について、絶景の城のPR、石垣ライトアップに加え、新たにダイヤモンド大山のPRを行う。		
	【数値目標】 常設展示施設以外での企画展及び歴史講座の開催 年間5回以上		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・イオンモール日吉津及び米子市立山陰歴史館で米子城展を開催した。 ・石垣ライトアップ（年2回）、ダイヤモンド大山観望会（2回）を実施した。 ・公民館等で歴史講座を開催した。 ・米子城跡について、著名人を活用したPR動画及び植生マップを作成した。		
	【成果】 文化財の活用では、埋蔵文化財センター等と連携を図り、企画展や歴史講座等を通じて文化財の魅力や重要性を幅広い世代にPRすることができた。また、ダイヤモンド大山は、マスコミなどで大きく取り上げられ、広く周知された。		
	【数値目標の実績値】 企画展示の開催 1回 歴史講座及び現地ウォークの開催 29回		
6 課題・今後の対応	イベントの告知については、市報以外にもSNS等を積極的に使用し、周知を図る。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基 本 施 策	番 号	3 - 4	所 管 課	生涯学習課 こども政策課 学校教育課		
	項目名	学びあう地域づくりの支援				
	概 要	子どもたちを取り巻く環境の著しい変化に伴い、学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校の努力だけで解決するには限界がある。そこで、米子市版コミュニティ・スクールの導入を進めるとともに、目指す子ども像の実現に向けて地域の様々な団体や住民がゆるやかにつながり、地域学校協働活動に取り組む。				
主 な 取 組	番 号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価		
	①	地域とともにある学校づくり		○		
	②	地域学校協働活動の推進		○※		
	③	地域学校協働活動推進員の配置		◎		
取組状況の総括	【成果】 東山中学校区及び弓ヶ浜中学校区の学校（2中学校、4小学校）において、学校運営協議会を設置し、学校と地域と一緒に子どもたちの成長を支える取り組みをスタートさせることができた。令和4年度末で、コミュニティ・スクールの導入済の学校が4中学校区（4中学校、8小学校）に増えた。 運営協議会委員、推進員、教員を対象にコミュニティ・スクールについて、理解を深めてもらう研修会を2回実施した。 地域の人材把握が難しい教員に代わり、学校に配置している地域学校協働活動推進員が学校と地域のつなぎ役を担い、教員の負担軽減を図っている。 地域学校協働活動推進員同士の意見交換会や研修会を実施し、活動の推進について支援を行った。					
	【課題・今後の対応】 今後、新型コロナウイルスの感染症の分類が5類になることで活動が活発化すると考えられるが、引き続き感染防止策を講じながら、安心安全な形で事業を実施していく必要がある。 全市におけるコミュニティ・スクールの導入に向けた準備を進め、導入された小中学校には地域学校協働活動推進員を配置していく。 地域学校協働活動のさらなる推進のために地域人材の確保が課題である。					
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり					
評価理由	市の計画に沿って、コミュニティ・スクールの導入を進めた。導入校に地域学校協働活動推進員を配置し、地域と学校をつなぐ役割を担い、教員の負担感の軽減につながる取組に努めた。					
教育委員の 意見・指摘	コミュニティ・スクールについて、市民に向けて、より一層の周知を行ってほしい。地域学校協働活動推進員の役割が見えにくいので、フォローアップを充実させてほしい。					

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-4 学びあう地域づくりの支援	主 な 取 組	①地域とともにある学校づくり
2 事務事業名	コミュニティ・スクール推進事業	所 管 課	生涯学習課 学校教育課
3 事業の概要	地域住民等が学校運営に参画し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、米子市版コミュニティ・スクール導入を推進する。 (小・中学校9年間の一貫した教育の実現に向けた、学校と家庭、地域住民による熟議の場の設定)		
4 目 標	【目標】 新たに、東山中学校区、弓ヶ浜中学校区の学校（2中学校・4小学校）において導入するため、準備会を設置し、年度内に学校運営協議会を設置する。		
	【前年度からの改善方法】 学校運営協議会の設置に向け、準備会で協議を重ねる中で、協議がスムーズに進むための支援を行う。		
	【数値目標】 東山中学校区、弓ヶ浜中学校区の学校（2中学校・4小学校）に令和5年1月1日付けで学校運営協議会を設置する。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 東山中学校区及び弓ヶ浜中学校区の6学校に準備会委員会を立ち上げ、委員28名を委嘱した。コミュニティ・スクールについての仕組みや理解を深めてもらうための研修会を2回実施した。 準備会では「目指す子ども像」、「学校運営協議会委員の構成・人選」、「地域学校協働活動推進員の人選」等の協議を重ね、コミュニティ・スクール導入に向け支援を行った。		
	【成果】 東山中学校区及び弓ヶ浜中学校区の学校（2中学校、4小学校）に学校運営協議会を設置した。学校と地域が一緒に子どもたちの成長を支える取組をスタートさせることができた。		
	【数値目標の実績値】 令和5年1月1日に東山中学校区、弓ヶ浜中学校区の学校（2中学校・4小学校）に学校運営協議会を設置した。		
6 課題・今後の対応	全市的なコミュニティ・スクール導入や活動の充実に向け、学校関係者や地域住民への周知や理解を広げていくとともに、活動等の推進、活性化に向けた支援に取り組む必要がある。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-4 学びあう地域づくりの支援	主な取組	②地域学校協働活動の推進
2 事務事業名	学校支援ボランティア コミュニティ・スクール推進事業	所管課	こども政策課 生涯学習課
3 事業の概要	学校支援ボランティアなど既存の活動を継承しながら地域学校協働活動を推進し、豊かな人間性と創造力を持ち、地域に愛着や誇りを持つ児童・生徒の育成を図る。		
4 目標	【目標】 各学校の実情に応じて、地域住民のボランティアを活用し、生活や学習の支援、環境整備、安全パトロールなどの地域学校協働活動を行い、児童生徒の学校生活の充実を図る。		
	【前年度からの改善方法】 コロナ禍において、規模の縮小や感染予防策の実施など実施形態を工夫しながら、引き続き事業を実施する。		
	【数値目標】 地域学校協働活動に参画する地域住民の数（年間延べ人数） 20,000人		
5 取組状況・成果	【取組状況】 各学校の実情に応じて、地域住民のボランティアを活用し、生活や学習の支援、環境整備、安全パトロールなどの地域学校協働活動を実施した。また、ボランティア支援員の専門性を生かして、地域学習を進めることができた。 学校運営協議会が設置された学校では、協議会で決定した活動を実施するため地域学校協働活動推進員を通じて地域住民に呼びかけを行った。		
	【成果】 地域学校協働活動を実施することで、様々な地域住民と触れ合い、児童生徒の学校生活の充実を図ることができた。また、地域学習を進めることで、児童生徒自身の暮らす地域のことをより深く知ることにつながった。		
	【数値目標の実績値】 地域学校協働活動に参画する地域住民の数（年間延べ人数） 19,842人		
6 課題・今後の対応	学校支援ボランティアなど地域学校協働活動の内容をより一層充実させるために、引き続き多様なボランティア人材の掘り起こしが必要である。 コミュニティ・スクールが全市的に導入される中、学校支援ボランティア事業を含めた地域学校協働活動を推進することが必要である。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-4 学びあう地域づくりの支援	主な取組	③地域学校協働活動推進員の配置
2 事務事業名	地域学校協働活動推進員配置事業	所管課	生涯学習課
3 事業の概要	学校と地域をつなぎ、地域学校協働活動をコーディネートするため、コミュニティ・スクールを導入した小中学校に地域学校協働活動推進員を配置する。		
4 目標	【目標】 コミュニティ・スクールを導入した学校すべてに地域学校協働活動推進員を配置する。		
	【前年度からの改善方法】 地域学校協働活動推進員という職が新たな職であるため、推進員同士の情報交換を定期的に行う等、相談支援体制や役割に対する研修を実施し、スキルアップを目指す。		
	【数値目標】 コミュニティ・スクール導入校すべて（12校）に推進員を配置し、地域学校協働活動を充実させる。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 学校と地域のつなぎ役として、コミュニティ・スクール導入済みの12学校において、週10時間以内で勤務時間する会計年度任用短時間勤務職員の任用を行い、地域学校協働活動推進員として配置をした。 推進員同士の意見交換や困りごとへの支援のため、年間5回程度、推進員を対象にした研修を実施した。		
	【成果】 地域の人材把握が難しい教員に代わり、学校に配置している推進員が学校と地域のつなぎ役を担い、教員の負担軽減を図っている。推進員向けの意見交換や研修を実施し、困っていることに対して支援を行った。		
	【数値目標の実績値】 導入済みの小中学校12校すべてに地域学校協働活動推進員を配置した。 学校支援ボランティア事業を承継しながら、地域と学校が一体となって子どもたちの成長を見守る取り組みを実施した。		
6 課題・今後の対応	コミュニティ・スクール導入に向けた準備を全市的に進め、市内の小中学校へ地域学校協働活動推進員を配置していくため、適任の人材を確保することが課題である。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基 本 施 策	番 号	4 - 1	所 管 課	学校教育課		
	項目名	健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成				
	概 要	子どもを取り巻く生活環境の急激な変化等の要因により、体力・運動能力の低下、二極化傾向、外的要因による健康被害等、体力向上や健康の保持増進に係る問題が喫緊の課題となっている。また、多様化する現代的課題に対して、子どもの安全・安心に対する懸念が広がっている。さらに、命の重みに対する感受性が弱まっていることが指摘されている。 こうしたことから、小・中学校が連携して、子どもの体力・運動能力の向上、健康で安全な生活、自他の命を大切にする態度や実践力の育成に努める。				
主 な 取 組	番 号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価		
	①	体力・運動能力の向上を図る取組の充実		○		
	②	健康教育の充実		○		
	③	いのちの教育の充実		◎		
	④	安全教育の充実		○		
取組状況の総括	【成果】 遊具の設置や部活動指導員等の配置について、計画どおり実施できた。コロナ禍で制約がある中で、専門機関と連携しながら健康教育・いのちの教育の充実を図ることができた。					
	【課題・今後の対応】 引き続き、体力・運動能力向上を図っていくとともに、コロナ禍による児童生徒の心身の状況を丁寧に把握し、必要な施策を講じていく必要がある。コロナ禍の収束を見据え、児童生徒の体力・運動能力の向上及び心身の開放に資するような施策を模索する。 部活動の地域移行に向け、様々な関係機関と連携したり、広く周知したりしつつ、計画的に準備を進めていく必要がある。					
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり					
評価理由	各事業における数値目標の達成状況と、内容的な前進を勘案し、この評価とした。					
教育委員の 意見・指摘	情報モラルだけではなく、情報リテラシーの問題も時間を取って学習してもらいたい。また、小学生になってからでは遅いとも感じるので、もっと年少の時から、さらには保護者への啓発も含めて検討してもらいたい。					

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主 な 取 組	①体力・運動能力の向上を 図る取組の充実
2 事務事業名	体力・運動能力向上事業	所 管 課	学校教育課 こども施設課
3 事業の概要	発達段階に応じた適切な運動を行ったり、運動能力を高めたりするため、指導方法の工夫改善を図り、児童生徒の体力・運動能力の向上に努める。また、運動の楽しさや喜びを実感させることにより、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現に向けた意欲と実践力の育成に努める。		
4 目 標	【目標】 運動する機会を増やしたり、充実させたりすることによって、児童生徒の運動意欲、体力・運動能力の向上に努める。 【前年度からの改善方法】 ・令和4年度が遊具設置計画の最終年度となるため、増設を計画通り完了させるとともに、その活用や安全管理について各学校を指導する。 ・中学校の運動部活動において、外部人材を増員することで、より専門的な指導によって、生徒の運動意欲と体力・運動能力の向上を図る。 【数値目標】 ・市内6小学校以上の遊具を整備し、はん登棒、雲梯、ブランコを設置する。 ・運動部活動の外部人材の配置数が参考値と同値または上回る。 <参考値>R3部活動指導員…6名 運動部活動外部指導者…9名		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・各小学校の遊具の状況を把握し、修繕、更新、新設を進めた。 ・各中学校の運動部活動の実態を把握し、部活動指導員、運動部活動外部指導者を配置するとともに、県教育委員会と連携し、指導者研修会を実施した。 ・成実小学校及び淀江小学校のグラウンドについて芝生化を行った。 【成果】 ・市内6小学校の遊具設置を行った。 ・運動部活動において外部人材の配置を進めたことで、生徒がより専門的な指導を受けることができ、運動意欲等の向上につながった。 ・グラウンドの芝生化によりケガをするリスクが軽減されるとともに、外で遊びたくなるような環境の整備が進んだ。 【数値目標の実績値】 ・市内6小学校の鉄棒、はん登棒、雲梯、ブランコの整備が完了した。 ・R4部活動指導員…6名 運動部活動外部指導者…10名		
6 課題・今後の対応	遊具の適切な活用や安全管理について各学校に指導する。 部活動の地域移行に向け、在り方協議会において今後の進め方について検討したり、モデル競技を実施したりするなど、準備を進める。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主 な 取 組	②健康教育の充実
2 事務事業名	健康教育推進事業	所 管	学校教育課
3 事業の概要	心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となる喫煙、飲酒、薬物乱用やメディア依存などに関する理解を深めるとともに、健康を害する状況に陥らないようにするための思考力・判断力の育成に努める。 人間の誕生の喜びや生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重しようとする態度や実践力の育成に努める。		
4 目 標	【目標】 メディア依存に関する学習をととして、自他の生命を尊重し、健康に関する知識、思考力、判断力の育成に努める。 【前年度からの改善方法】 全国的に、メディア依存の傾向が近年増加傾向にある。こうした実態をふまえた健康教育を検討するよう、各学校へ情報提供及び指導を行う。 【数値目標】 ・月曜日から金曜日に、1日1時間以上テレビゲームをする割合が全国平均と同値または下回る。 R3 小学校…76.3% 中学校…80.1% ・心の健康問題、薬物乱用防止について複数学年で実施した学校の割合が参考値と同値または上回る。 ＜参考値＞ R3 小学校…65.2% 中学校…50.0%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・専門機関（警察）と連携を取り、児童生徒の発達段階に応じた学習を行った。 ・各学校の健康相談等であがった課題について、専門機関との連携を含めた実践的で効果的な健康教育に取り組んだ。 【成果】 専門機関（警察）と連携することで、児童生徒がより専門的に学び、情報モラルに対する意識を高めることができた。また、自他の生命を尊重し、健康に関する知識、思考力、判断力を身に付けることができた。 【数値目標の実績値】 ・月曜日から金曜日に、1日1時間以上テレビゲームをする割合 小学校…75.4% 中学校…69.4% ・心の健康問題、薬物乱用防止について複数学年で実施した学校の割合 小学校…52.1% 中学校…45.4%		
6 課題・今後の対応	・今後も、メディア依存の割合が増加するものと思われる。児童生徒だけでなく、保護者への啓発についても取り組んでいく必要がある。 ・児童生徒が抱える心の健康問題に引き続き留意しつつ、その課題の解決に向けて、各学校へ情報提供及び指導を行っていく必要がある。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主 な 取 組	③いのちの教育の充実
2 事務事業名	自他の命を大切に する子どもの育成事業	所 管	学校教育課
3 事業の概要	児童生徒が生命の誕生や生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重しようとする態度や実践力を育む取組を全教科・全領域において実践する。		
4 目 標	【目標】 専門機関と連携しながら、児童生徒が自他の生命を尊重しようとする態度や実践力を育むための教育の充実を図る。児童生徒が自主的・自発的にいじめのない安心・安全な楽しい学校づくりに取り組む。		
	【前年度からの改善方法】 ・新型コロナウイルスの感染拡大状況においても、リモート等によって外部機関との連携を図ることができるようにする。 ・いじめのない安心・安全な楽しい学校にするために、校区で取組方法を工夫する。		
	【数値目標】 ・いのちの教育を専門機関と連携して行う学校の割合が、参考値と同値または上回る。＜参考値＞ R3…44% ・安心、安全な学校づくりの推進を図る学校の割合が、参考値と同値。＜参考値＞ R3…100%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・発達段階に応じて、身体や命の大切さについて学習した。また、小学4年生以上の学年では、外部講師から命の誕生について専門的な話を聞く機会を設けた学校もあった。 ・児童生徒がいじめのない安心・安全な楽しい学校にするために、各中学校区で自治の取組の充実を図った。		
	【成果】 ・外部講師から命の大切さについて教わることで、自他の命の尊さを学ぶことができた。 ・安心・安全な楽しい学校づくりの実現に向けて、各中学校区で小中サミットの代替として小中交流会を実施した。各校区で話し合われたことを米子市内の学校で共有したことで、自治の取組の充実につながった。		
	【数値目標の実績値】 ・いのちの教育を専門機関と連携して行った学校の割合…76.4% ・安心、安全な学校づくりの推進を図った学校の割合…100%		
6 課題・今後の対応	・専門機関と連携したいのちの教育の更なる充実を図る。 ・いじめのない安心・安全な楽しい学校づくりに向けて、アフターコロナをふまえ、市内各校が参集する小中サミットを開催し、各校区のよい実践を市内で共有していきたい。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主 な 取 組	④防災・安全教育の充実
2 事務事業名	安全・防災教育実施推進事業	所 管 課	学校教育課
3 事業の概要	児童生徒が危険から身を守るために、それぞれの要因の理解や予測する力、状況に応じた適切な対応等の実践力の育成に努める。また、災害への備えや、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動することなど、災害から身を守る態度や実践力の育成に努める。		
4 目 標	【目標】 安全及び防犯関連の学習において、専門機関と連携しながら児童生徒への指導の充実を図る。具体的な場面を想定した防災教育を通して、児童生徒が災害から身を守る態度や実践力を育む。 【前年度からの改善方法】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外部機関と連携した防犯教室等の実施が困難になることが予想されるため、リモートや校内放送を活用するなど、指導の工夫・充実を図る。 ・避難訓練について、緊急地震速報やJアラートを活用するなど、具体的な場面を想定して行う好事例を市内各校に広げる。 【数値目標】 ・専門機関と連携した防犯教室実施校が参考値と同値または上回る。 ＜参考値＞ R3 小学校…61% 中学校…82%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中であったが、警察職員を外部講師として招聘しての防犯教室を実施することができた。 ・避難訓練においては、火災・地震・津波・土砂災害・不審者侵入等の様々なケースを想定して実施した。参観日等を利用して、保護者を対象とした避難訓練を実施した学校もあった。 【成果】 ・専門機関から情報モラルや交通安全に関する話を直接聞くことで、非行防止への意識向上や交通マナーへの理解を深めることができた。 ・避難訓練においては、具体的な場面を想定した訓練を行ったことで、児童生徒が自らの身を守るための判断力を身につけることができた。 【数値目標の実績値】 ・専門機関と連携した防犯教室実施校 小学校…65.2% 中学校…72.7%		
6 課題・今後の対応	新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ、これまで控えていた外部機関と連携した防犯教室等の再び積極的に実施していく。 避難訓練においては、引き続き好事例を市内各校に紹介しながら横展開を図っていく。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番 号	4 - 2	所 管 課	学校給食課		
	項目名	学校における食育の推進				
	概 要	栄養教諭、学校栄養職員の給食時間や授業などでの食に関する指導により、給食の残量は減ってきてはいるが、児童生徒の食生活の変容に十分には至っていない。 そのため、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、栄養教諭、学校栄養職員が学級担任等と連携して、各教科や給食時間において学校給食を「生きた教材」として有効活用した実践的な指導を行うなど、継続的に食育の推進に努める。				
主 な 取 組	番 号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価		
	②	給食の時間における食に関する指導の実施		◎		
	①	各教科等における食に関する指導の実施		◎		
	③	食育に関する保護者への啓発と広報		○※		
取組状況の総括	【成果】 栄養教諭等が給食時間に学校訪問し食育指導を行ったことで、「いきいきこめっこデー」の認知度が高まるとともに、給食に関心を持つ児童生徒が増え、食材への理解も深まった。 栄養教諭等が同じ中学校区の小中学校を担当することで小中学校の連携が深まり、指導に一貫性を持たせることができた。 米子市の取組がマスメディアで取り上げられる回数や、給食レシピの問合せが増えるなど、保護者や地域の給食に関する関心がさらに高まった。					
	【課題・今後の対応】 引き続き、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、栄養教諭、学校栄養職員が学級担任等と連携して、各教科や給食時間において学校給食を「生きた教材」として有効活用した実践的な指導を行うなど、継続的に食育の推進に努めていく必要がある。					
基本施策評価 (総合評価)	S					
評価理由	主な取組の各事務事業における数値目標の達成状況と新型コロナウイルス感染症の影響を勘案し、この評価とした。 給食試食会での講演が、新型コロナウイルス感染症の影響により2回しか実施できなかったが、給食だよりや食育に関する資料などを家庭配布することで、保護者啓発の充実を図った。					
教育委員の 意見・指摘	給食の残食量の傾向を新たな数値目標として取り入れるなどして、更なる施策の充実を目指してほしい。					

75

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-2 学校における食育の推進	主な取組	②給食の時間における食に関する指導の実施
2 事務事業名	給食の時間における食に関する指導の実施	所管課	学校給食課
3 事業の概要	給食時間に「生きた教材」である学校給食を有効に活用した実践的な指導を実施する。		
4 目標	【目標】 栄養教諭等が、給食時間における食に関する指導を行う。 給食を通して、食べる楽しさや学ぶ楽しさを知ることによって、いきいきとした豊かな心や郷土愛を育むことを目的として取り組んでいる「いきいきこめっこプロジェクト」のさらなる展開を図っていく。		
	【前年度からの改善方法】 引き続き、より効果的な指導方法などについて研究していくとともに、教職員の食育への理解を深めるため、「いきいきこめっこデー」などについての啓発方法を見直していく必要がある。		
	【数値目標】 小学校 各学級 年3回(903回)以上 中学校 各学級 年2回(266回)以上		
5 取組状況・成果	【取組状況】 昨年度見直しを行った「給食時間における食に関する指導計画」や指導方法を基に、栄養教諭等が指導を展開した。また、指導内容をまとめた掲示資料を市内統一で作成し指導後に配布することで、給食時間の指導の効果的な活用を図った。 中学校区に同じ栄養教諭等が指導を行うことで、小中学校間の連携を深めるとともに、小中9年間を見通した系統・継続的な指導を展開した。 他課や関係団体と連携して、給食を教材とした食育の推進プロジェクトを展開した。		
	【成果】 栄養教諭等が給食時間に学校訪問し食育指導を行ったことで、給食に関心を持つ児童生徒が増え、「いきいきこめっこデー」の認知度も高まった。 市内共通仕様の指導教材や資料配布を実施することで給食時間の指導の平準化を図ることができた。栄養教諭等が同じ中学校区の小中学校を担当することで小中学校の連携が深まるだけでなく、校区の実態に沿った指導を展開でき、また、指導に一貫性を持たせることができた。		
	【数値目標の実績値】 小学校 各学級年平均 3.1回(954回/301学級) 中学校 各学級年平均 3.8回(511回/133学級)		
6 課題・今後の対応	栄養教諭等により効果的な指導方法などの教材研究と、食に関する指導のカリキュラムマネジメントを深めていく必要がある。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-2 学校における食育の推進	主な取組	③食育に関する保護者への啓発と広報
2 事務事業名	食育に関する保護者への啓発と広報	所管課	学校給食課
3 事業の概要	給食だよりなどの家庭配布や給食試食会などにおける講演により、児童生徒の食生活の状況や望ましい食生活のあり方などについて、保護者への啓発を行う。 また、学校給食献立レシピの市報、ホームページへの掲載や学校給食を活用した取組をマスメディアなどで効果的に情報発信を行う。		
4 目標	【目標】 栄養教諭等による保護者への講演、家庭配布物などによる保護者啓発を実施し、保護者の食育、給食への理解を高める。 【前年度からの改善方法】 給食試食会で講演を行うとともに、広報よなごや給食だより等で食育に関する記事を掲載したり、米子市のホームページ等で給食献立のレシピの紹介を行い、保護者に対する啓発や広報を行う。 ICTを活用した新しい連携方法を研究する等、家庭との連携を新たに研究し、密にしていくことで、食育、給食への理解を高める。 【数値目標】 講演 年10回以上 ※コロナ禍での代替目標 給食だより号外発行回数 前年度以上 令和3年度 給食だより号外発行回数 5回		
5 取組状況・成果	【取組状況】 保護者に対する啓発や広報を次のとおり行った。 ・アスリート交流事業など学校給食を活用した取組をマスメディアで発信 ・広報よなごや給食だより等で食育に関する記事を掲載 ・米子市のホームページ等で給食献立のレシピを紹介 ・学校ホームページや学級だよりなどで給食献立など食育の取組を紹介 【成果】 米子市の取組がマスメディアで取り上げられる回数や、給食レシピの問合せが増えるなど、保護者や地域の給食に関する関心がさらに高まった。 【数値目標の実績値】 講演 年 2回 新型コロナウイルス感染症の影響により給食試食会での講演会が2回しか実施できなかったが、給食だよりや食育に関する資料などを家庭配布することで、保護者啓発を行った。 ※ 令和4年度 給食だより号外発行回数 6回		
6 課題・今後の対応	様々に工夫していろいろな方法で保護者への啓発は行っているが、コロナ禍での新たな啓発方法について、第二学校給食センターを活用した新たな取組の企画を検討するなど、さらに検討する必要がある。 併せて、学校・地域と連携をさらに深め、様々な広報媒体を活用して家庭への情報発信を一層進める必要がある。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

1 1 学識経験者の知見

点検・評価の客観性を高めるため、教育に関し学識経験を有する方の知見を活用することとし、令和5年8月8日に次の方々から点検・評価に関する意見聴取を行いました。

小 谷 幸 久 氏（社会教育委員、米子市文化協議会会長）

高 橋 喜美子 氏（就將公民館運営審議会委員、元小・中学校PTA会長）

西 垣 滋 氏（元米子市立小学校長）

学識経験者による主なご意見・指摘については、次のとおりです。

全体を通したものとして、数値目標を達成した事業については、次年度以降、目標設定を見直し、米子市教育振興基本計画の目標が達成できるように取り組んでほしいという指摘がありました。

番 号	学識経験者の意見・指摘
基本施策	
1-1	学校教育においては、数値目標がそぐわない側面もあるので、全国平均値も含め多面的な数値で事業を評価することが大切であると思う。 人権教育推進事業においては、全ての小学校で同和問題学習資料集に掲載されている教材を活用することができたので、今後は、その教材がさらに有効活用できるような取組を進めていってほしい。
豊かな心と創造性をもった子どもの育成	
1-2	学校施設の改修、整備については、引き続き学校現場の要望をよく聞いて事業を行ってほしい。
安全で安心な学校施設の改善	
1-4	今後、大量のタブレット端末の更新が予想されるので、十分に検討しておくこと。
学校ICT環境の整備	
1-6	図書が子どもの心を育てたり、学習に使われている。引き続き古い本を新しい本に入れ替えながら蔵書冊数を確保し、手を抜くことなく、学校図書館の充実を推し進めていただきたい。
学校図書館の充実	

番 号	学識経験者の意見・指摘
基本施策	
2-1	情報教育普及事業において、多額の費用を投じてタブレット端末を設置したことが無駄にならないように、しっかり活用してほしい。実際の授業で使えるように、その頻度をどう上げるかというのは、学校教育の大きなポイントのような気がする。 米子市小学校オープンスクールにおいては、参加できなかった保護者への情報提供の方法を検討してほしい。
確かな学力を身につけた子どもの育成	
2-3	おはなし会の開催やブックスタート支援事業は、保護者が子育てしやすい環境につながり、良い取組ができている。
子ども読書活動の推進	
2-6	「ヤング・アダルトコーナー」など、いろいろな分野に沿った本の置き方がされており、利用者が本を選びやすく、とても良いと感じる。
生活に役立つ図書館の充実	
3-3	埋蔵文化財活用事業において、「植生マップ」の作成や、現地ウォークなどの、いろいろな楽しみ方を提案しているのは良い取組である。マスコミの力はすごいので、そこも利用して、情報発信をしていったら良いと思う。
歴史的文化遺産の保存と活用	
4-2	「給食だより」の内容が分かりやすく、とても良いが、外国籍の方も理解できるようにルビがあると、さらに良いと思う。 学校給食で支えられている子どもがいるなか、しっかりアレルギー対応もしているのは大事なことである。
学校における食育の推進	

米子市教育振興基本計画体系図

基本目標	目指す市民の姿	基本施策	主な取組
1 心を育む学びのあるまち 心の豊かさを持つとともに生きがいがある ふれる豊かな人生を送ることができるよう、 人と人との関わり合いの中で、互いに認め 合いながら心の交流を図ることのできる学 びの機会の提供に努めます。	○ 互いの違いを認め合いながら、自他の命の 大切さを意識し他人を思いやる心と態度が 備わっています。 ○ 自ら率先してあいさつを交わし、社会のきま りやモラルが守れるまちづくりを目指してい ます。 あいさつ、感謝など自分の気持ちの表現が できるとともに、課題解決のための行動が とれます。	1-1 豊かな心と創造性をもった子どもの育成 学校教育課 1-2 安全で安心な学校施設の改善 こども施設課 1-3 環境に配慮した学校教育環境整備の推進 こども施設課 1-4 学校ICT環境の整備 こども施設課 学校教育課 1-5 通学路の安全確保 こども支援課 1-6 学校図書館の充実 こども施設課 学校教育課	①心の教育の充実 ②人権教育の充実 ③生徒指導の充実 ④ふるさと・キャリア教育の充実 ①学校施設大規模改修・非構造部材の耐震化 ②学校施設整備(改修)事業 ①学校施設維持管理事業 ②学校施設のバリアフリー化事業 ①ICT機器整備事業 ①危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実 ①学校図書館運営事業
2 学ぶ楽しさのあるまち 学んだことをいかしながら創造力と実践 力が育まれるよう、どの世代においても 様々な体験を通して発見や豊かな学びが 獲得できる場の提供に努めます。	○ 学ぶ楽しさを知り、自ら進んで学ぼうとする 姿勢があります。 ○ 生涯を通して学ぶ楽しさを身につけ、学ん だことを生活や行動、まちづくりにいかしま す。	2-1 確かな学力を身につけた子どもの育成 学校教育課 こども政策課 こども支援課 こども相談課 2-2 子ども地域活動の支援 地域振興課 2-3 子ども読書活動の推進 生涯学習課 市立図書館 2-4 公民館運営の充実 地域振興課 2-5 公民館の整備 地域振興課 2-6 生活に役立つ図書の実 生涯学習課 市立図書館	①学力の向上を図る学びの充実 ②特別支援教育・インクルーシブ教育の推進 ③切れ目ない支援体制の推進 ④外国語・英語教育の充実 ⑤情報教育とICT活用による授業の充実 ①子ども地域活動の支援 ①乳幼児期から本に親しむ機会の創出 ②子ども読書活動推進事業の実施 ①広報活動 ②社会教育講座 ③体育・文化事業 ④ひとづくり・まちづくり推進事業 ①公民館施設等整備事業 ②明道公民館整備事業 ③生活充実図書整備事業

米子市教育振興基本計画体系図

基本目標	目指す市民の姿	基本施策	主な取組
3 郷土で育む学びのあるまち 米子の財産である豊かな自然や歴史・文化遺産を保護・保存・継承・活用していくとともに、その魅力と価値を発信しながら、市民が郷土に誇りを持てる学びの創造に努めます。	○ 米子の地理や歴史を学びながら、米子の自然や伝統・文化を理解しています。 ○ 郷土である米子を愛し、誇りを持ってまちづくりを進めています。	3-1 学校給食における地産地消の推進 学校給食課 3-2 生涯学習活動の推進 生涯学習課 3-3 歴史的文化的文化遺産の保存と活用 文化振興課 3-4 学びあう地域づくりの支援 学校教育課 こども政策課 生涯学習課	①学校給食用食材の県産品利用の推進と充実 ②生産者と児童生徒の交流の実施 ③児童生徒から募集した地元食材を使用した献立の実施 ④郷土料理等の積極的な導入と継承 ①米子人生大学の開催 ②よなごアカデミーの開催 ③二十歳を祝う会の開催 ①文化財保存活用地域計画の策定 ②文化財の保存整備の推進 ③文化財の活用の展開 ①地域とともにある学校づくり ②地域学校協働活動の推進 ③地域学校協働活動推進員の配置
4 健康で安心して学べるまち 生涯にわたり健康で明るく活力ある生活を送ることができるよう、健康に関する情報発信や啓発を行いながら、誰もが目的や年齢等に応じたスポーツに親しむことができ、場の提供と全ての施設で安心して学べる環境整備に努めます。	○ 食生活の大切さを理解して健康的な体づくりを目指しています。 ○ 規則正しい生活と適切な食生活を送り、健康な体づくりに努めています。	4-1 健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成 学校教育課 4-2 学校における食育の推進 学校給食課	①体力・運動能力の向上を図る取組の充実 ②健康教育の充実 ③いのちの教育の充実 ④防災・安全教育の充実 ①各教科等における食に関する指導の実施 ②給食の時間における食に関する指導の実施 ③食育に関する保護者への啓発と広報